

研究課題「新規造血器疾患治療法の開発を指向した臨床試料を用いた基礎研究」について

骨髄性白血病をはじめとする造血器疾患に対する治療法やその成績は以前と比較すると大きく改善していますが、現在でも治療が困難な症例も多く存在し、新たな治療法の開発が望まれています。京都大学ウイルス・再生医科学研究所がん・幹細胞シグナル分野では、白血病などの造血器疾患の新規治療法の開発に繋がるがん細胞の作動原理の解明を目的として研究を行っています。新たな治療法の開発においては、患者さんの細胞を用いた基礎研究が必要です。このような目的のために、東京大学医科学研究所との共同研究として、下記の研究課題を実施致します。なおこの研究は、京都大学ウイルス・再生医科学研究所医の倫理委員会、東京大学医科学研究所倫理委員会の承認を得て、研究機関の長の許可を受けて実施されます。

1. 試料・情報の利用目的

京都大学ウイルス・再生医科学研究所がん・幹細胞シグナル分野の研究から得られた創薬標的候補に関して、試験管内試験および動物モデルの系を用いて創薬標的としての有効性を評価することを目的とします。

2. 研究期間

承認日から2023年3月31日まで

3. 利用または提供する試料・情報の項目

東京大学医科学研究所血液腫瘍内科の研究課題「造血器疾患の臨床検体を用いた新規治療法の開発」で管理・保管されている既存試料および疾患情報。

4. 試料・情報の利用方法

東京大学医科学研究所血液腫瘍内科の『造血器疾患の臨床検体を用いた新規治療法の開発』で管理・保管されている試料を送付により取得し、この臨床試料を解凍し免疫不全マウス NOG 系統に移植します。NOG マウス中で増殖した試料由来細胞を FACS 等の方法で採取し、遺伝子ノックダウン、機能欠失変異等の遺伝子治療、または標的遺伝子産物に対して作用のある化合物や抗体処理を行い、試験管内での増殖に対する効果を調べます。また、試料由来細胞を保持する NOG マウスに対し、遺伝子治療、化合物・抗体の投与を行って、細胞の増殖能、分化能について解析を行います。

5. 試料・情報を利用する者の範囲

京都大学ウイルス・再生医科学研究所がん・幹細胞シグナル分野

6. 共同研究機関

東京大学医科学研究所附属病院血液腫瘍内科

7. 研究参加の辞退について

試料・情報が本研究に用いられることについて、患者さんあるいは患者さんの代理人の方にご了承頂けない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出下さい。その場合でも患者さんの不利益が生じることはありません。

8. 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称
京都大学ウイルス・再生医科学研究所 教授 伊藤 貴浩

9. 問い合わせ先

がん・幹細胞シグナル分野 伊藤 貴浩
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
京都大学ウイルス・再生医科学研究所
連絡先電話番号 075-751-4805
受付可能時間 平日午前9時から午後5時まで